

広報

環境カウンセラーちば

第30号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

EC千葉のボランティア活動の現状

理事長 土田 茂通

環境カウンセラー千葉県協議会(以降 EC千葉)が NPO 法人になって5年目、平成19年度を迎えようとしている。この過去4年間は EC千葉にとってはまさに揺籃期にあたり、この間会員の特長を生かした環境ボランティア活動を模索・実施してきた。平成10年2月に市民団体として発足して以来9年経過した今、EC千葉の環境ボランティア活動は足が地に着いた活動に近づきつつあり、黎明期を迎え始めたという実感も出てきた。

国内におけるボランティア活動は慈善事業など古い歴史を持っているが、神戸・淡路大震災を境に、1995年がボランティア元年といわれ、それ以来急速に関心が高まり、現在の姿のボランティア活動が普及・定着してきたといわれている。

従来環境ボランティア活動領域といえ、目的が明確で、森林を守る、湖沼をきれいにするなど、開発か保全かの自然保護運動や各種の住民運動や消費者運動などが主流と考えられてきた。

平成8年、環境カウンセラー登録制度が告示され、まもなく EC千葉が設立され、スタートしたが、その活動の目的は EMS 支援を除いては漠然とした具体性の乏しいものであった。集まった会員は、それぞれの思いは異なり、EC千葉という居場所のコミュニティーをつくり、環境ボランティア活動を模索し始めた。

ほぼ10年間を経て、EC千葉のボランティア活動は進化を遂げ、道半ばとは思われるが、環境ボランティア活動に情熱を傾けて取り組む態度が評価されるようになってきた。このように現役を終えた悠々自適の OB 軍団が主力で活動する姿を見て、外部の声として「高齢者の OB 軍団が情熱を傾けて環境保全や環境学習支援に取り組んでいる。そのモチベーションはどこから生まれているのだろう」との素朴な質問が聞こえてきた。

ボランティアの基本特性は「自発性」「無償性」「公益性」「創造性」といわれている。最も基本になる自発性については、ボランティアの実践により得た喜びや達成感が積み重なってくることにより、個人の自発性を高揚させ意識を変化させてきた。更にグループへの活性化につながってきたと受け止めている。

無償性・公益性については至極自然に受け止められていると思われるが、EC千葉の OB 軍団を活性化させ、刺激しているのは「創造性」によるものと考えられる。

ボランティア活動に対するニーズの発掘や、眠っているニーズを顕在化させるには感受性が必要で、そのニーズを具体化させて計画・実践につないでいくには「創造性」を必要とする。

発掘されたニーズが、私達の好奇心を刺激し、開発的・創造的な要求が含まれていれば、新しいボランティア活動への展開が期待される。更に具体的な活動に各人保有する多くの専門性が要求されてくれば、ボランティア活動への参加者が増加し、活動領域が広がってくると思える。いま、EC千葉はこの入り口に立っていると思われる。

平成17年から取り組んでいる高校の環境教育・環境学習の分野の事例は、多様な専門性を要求されている。参加しているメンバーは「昔取った杵柄」を活かせ、喜々として取り組んでいるように見える。そしてまだ参加していない他の会員の意欲を刺激しているようである。この様子から今後の環境ボランティア活動への参加者の広がり期待できる。

2年間経過した今、EC千葉にとって大切なことは、経験を踏まえて、受け手のニーズや立場を十分把握した上で、EC千葉内部で創造力やコミュニケーションを高める環境学習の機会を増やしていくことと考える。

千葉県 NPO パワーアップ補助金

(平成 18 年度)事業

戸村 泰

今持続可能な社会への変革を目指して、全国民に学びの重要性が指摘されている。

当協議会は NPO として、市民として、学校に協力して高等学校における環境学習に貢献出来ることはないか模索してきた。ここに、これまでの活動の状況をまとめて報告し、私たちもパワーアップし、学校と NPO との連携が益々活発化することを期待している。

＜学校との接触のきっかけ＞

平成 16 年 12 月に千葉県総合教育センターで「千葉県型環境教育の創造をめざして—NPO に学ぶ」という公開講座が開かれ、当協議会は、燃料電池の実験装置を展示・実演して、ポスターセッションに参加した。その後、県立船橋北高等学校から総合学習(環境)の授業の協力を要請された。

＜千葉県立船橋北高等学校での

総合学習(環境)の授業の実施＞

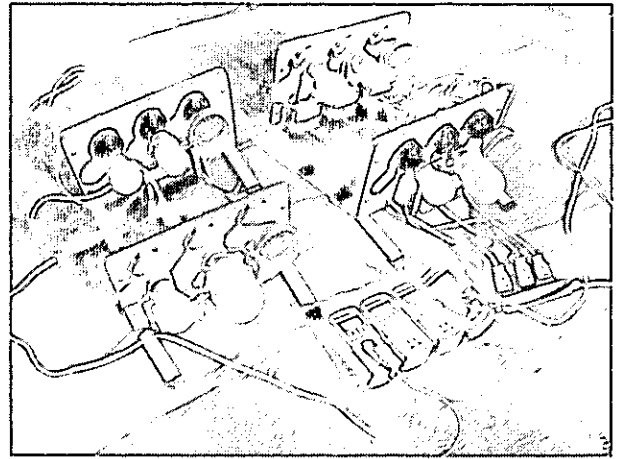
平成 17 年 10 月に同高校 3 年生 180 人を対象に、20～30 名の小グループ・2 時限の授業を 8 つの学習テーマを同時並行で行いました。平成 18 年 10 月に、より分かりやすいテキストと改良された実験装置をもって再び、同高等学校にて、3 年生 180 人を対象に、以下の 8 つの学習テーマで授業を実施した。

共通テーマ：

一人ひとりが
地球のためにできる
環境問題を考えよう

学習テーマ：

1. 燃料電池「燃料電池を自分で作って理解しよう」
2. 省エネルギー「加速させよう！ 省エネの取組み」
3. 太陽光発電「太陽光発電で地球を救う」
4. 廃棄物処理と不法投棄
「“モッタイナイ”の心で廃棄物を見直そう」
5. バイオマスの活用
「牛糞で自動車が走るってホント？」
6. 水質と測定「君は分析者！」
7. 水環境「命をはぐくむ水！」
8. 自然保護の大切さ「身近な自然環境を知る」



新しく開発された照明実験装置

＜私たちならではの特長＞

1. 最新の情報と熱い情熱を持った講師陣
環境省が審査・登録した環境問題の専門家の環境カウンセラーの講師による授業は、講師のこれまでの人生経験に裏付けされており、生徒の今後の人生のあらゆる場面での参考になると確信している。
2. 幅広い活動経験に基づく学習内容と独自の実験・自習教材プログラムのテキストは、多くの専門知識・経験を横断的に結集して編纂した。
実験・実習は、特に生徒自ら実験したり、体験したりする体験型学習を主体としている。
3. 学校側のご意見を取り入れた柔軟な対応を行う。

＜高等学校の総合学習に協力していきたい＞

現在、上記の 8 テーマに新しいテーマを追加し開発して多様なご要望に対応していきます。

ぜひ、学校からのご感想・意見・問い合わせをお寄せください。お待ちしております。

SCOT 事業について

國廣 隆紀

SCOT: サイエンス・コラボ・ティーチャー

: 理科支援員等配置事業

文部科学省の定める要項により、千葉県教育委員会が 18 年度から市原市と市川市の小学校で実施している。小学校 5, 6 年生の「理科」の観察・実験等をサポートする、理科が得意な人材「理科支援員」や「特別講師」を派遣するものである。19 年度からは、60 億円の予算で、全国 1 万校の小学校を予定しており、特別講師は、推薦を基に退職した教員や技術者等の登録が予定されている。団体や個人が登録でき、EC 千葉は団体登録をする。環境学習・総合学習と共に、協議会メンバーの活躍が期待される。

環境マネジメントシステム支援センター 活動報告

1. 第9回企業環境セミナー

10月20日於千葉商工会議所（参加者：50名）

基調講演 廣川一男

「環境マネジメントから経営マネジメントへの転換」
経営に役立つマネジメントにするための手法を力説、
その後3つの分科会に分かれ意見を交換した。

(1) 「環境管理から環境配慮マネジメントへ」

リーダー：西田啓作

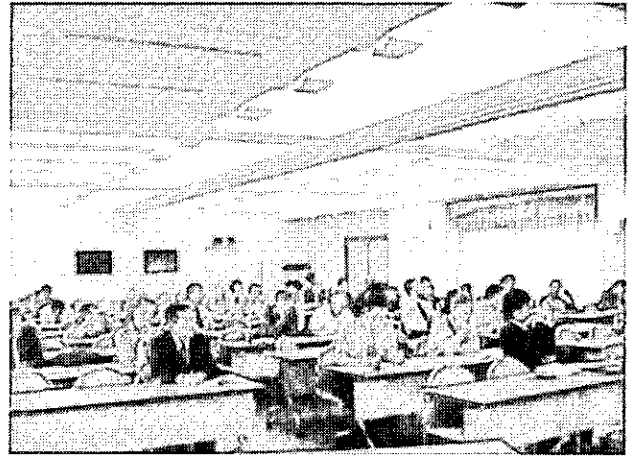
(2) 「有効性の高い環境マネジメントへの継続的
な改善」

リーダー：山本光男

(3) 「内部監査で効果をあげるには」

リーダー：野口 久

各分科会では参加各社の悩みや疑問点なども取り
上げ議論を行った。



第9回企業環境セミナー（10月20日）

2. EA21 普及セミナー

8月25日 於千葉商工会議所（参加者：69名）

EA21 地域事務局などとの共催で「エコアクション 21
で激動の時代を勝ち抜く」をテーマにして基調講演
（戸村泰）のあと、事例紹介2件、「エコアクション
21 認証・登録の手続きとそのポイント」（二宮）を
説明した。個別相談3件有。

3. 産廃事業者向けエコアクション21セミナー

9月28日 於千葉県産廃協会（参加者：21名）

EA21 地域事務局、千葉県産廃協会と共催。

基調講演（有馬）のあと事例紹介を1件、「エコア
クション 21 認証・登録の手続きとそのポイント」
（二宮）を説明した。

4. EA21 実務セミナー

11月17日 於柏商工会議所（参加者：33名）

EA21 地域事務局などとの共催で従来のセミナーに
実務面を追加したセミナーとした。

「エコアクション21で激動の時代を勝ち抜く」（青木）

「エコアクション21 導入の実務」（福井）

「エコアクション21 認証・登録の手続きと

そのポイント」（種本）

事例紹介は1件、個別相談4件

5. ISO14001 内部監査員養成講座

於千葉商工会議所

第1回目：5月18・19日（参加者：24名）

第2回目：11月28・29日（参加者：20名）

講師はいずれも野口 久。説明が大変分かり易いと
好評である。来年度はISO9001 内部監査員養成講座
も開設する。

6. その他

① 5月17日 於某産廃コンサルタント会社「EA21
手続き」について講演（西田）

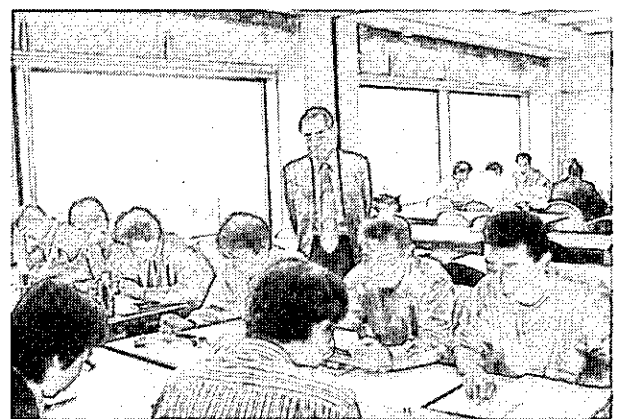
② 6月3日 於千葉県環境保全センター「EA21
手続き」について講演（西田）

③ 9月14日 於柏市 EA21 説明会（福井）

④ 9月24日 環境シンポジウム千葉会議 2006
第5分科会でEA21の普及活動の紹介（二宮）

⑤ 11月24日 於千葉県中小企業家同友会
「EA21」の講演（西田）

⑥ 10月～於柏市 EA21 自治体イニシャティブ・プ
ログラム（8回開催予定）（西田、青木、福井）



内部監査員養成講座（5月19日）

平成19年度は、企業環境セミナーを10月に千葉
商工会議所で実施する他、EA21 セミナーを各地で数
回、内部監査員養成講座を千葉商工会議所で環境3回
品質2回を予定している。決定次第ホームページに掲載
しますので、ご確認ください。

環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵

成田地区のJAL環境施設見学会報告

整備工場

藤田 忠宏

1. はじめに

平成18年9月8日(金) JAL成田空港施設見学会が計画され、普段簡単には経験できない機会とあって、期待に胸を膨らませ参加を申し込んだ。参加者は総勢25名であったが、皆さん私と同じ思いだったのではなかろうか。成田整備場で行っている主な整備業務は次のようなものである。

- ・ ジェットエンジン整備 ・ 電子機器等の部品整備
- ・ 機体の整備
- ・ 運航点検整備(着陸～離陸の間の機体の点検)
- ・ 部品の補給 ・ 機体の洗浄(自動洗浄施設)等

現場見学の前に会議室で、航空機輸送による環境への影響や環境に対するJALの取り組み等について、誠意と熱意をもって全般的なご説明を戴いた。

1. 紙資源循環への取り組み

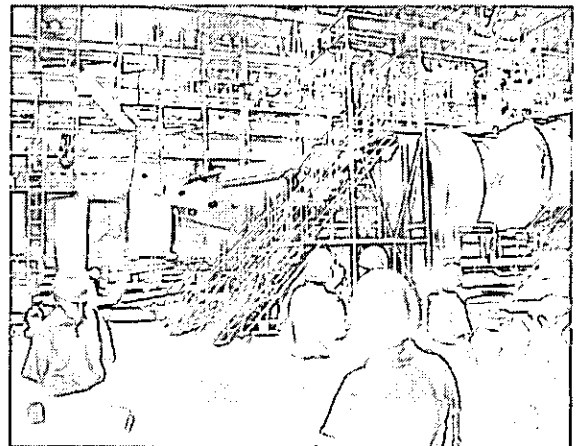
ゼロエミッションを目標に2001年7月に活動を開始した。発生するのは、①ミックス紙(事務所) ②機密書類(ダンボールを封印して出荷) ③機内誌の3種類で、これらをトイレットペーパーにして一括購入しているが、コスト的には運搬費が最も大きい。当初は、(機密書類等)制約が多くて苦勞したが、現在は軌道に乗ってスムーズに流れているようである。

2. CO₂排出と削減努力

・ 運輸関係でのCO₂排出量は全体の20%、その内自家用車が49%、航空機は4%で、航空輸送に伴うCO₂排出量は全体の0.8%である。

・ 航空機の燃料消費量と削減対策

東京-札幌間で搭乗率65%(355名)としてドラム缶70本分消費する。現在、航続距離10800kmの機種17機を退役させて12800km(CO₂低排出)型機14機の就航を計画中である。運行本部としてもチームマイナス6%を発足させ、機長もSOP(Save Our Planetをスローガンにして、駐機中は室内空調用等のAPU(補助エンジン:CO₂発生量が多い)は使わず地上のGPUを使う、インターセクションテイクオフでタキシング距離を節約する。又、飛行計画(高度、航路、燃料)を精査して、ジェット気流の向かい風は避け3度の角(60mに3m)で下降し、リバースエンジンは原則として使わず、フラップ、車輪は出来るだけ遅く出す、第3エンジン(ハイドロリックシステムなし)をカットする等、ありとあらゆる努力を行っている。しかしながら機体整備場から見た滑走路の状態には愕然とさせられた。



エンジンを起動した飛行機が離陸待ちで行列をなしているのである。恐らく上空でも着陸待ちの飛行機が何機も旋回しているであろう。何のことはない、機長の努力は水の泡である。正規の滑走路がもう1本完成すればこのような現象は大幅に緩和され、機長の努力も報われるであろうにと、思わず嘆息したことであった。

3. 洗機設備

洗車機のジャンボジェット機版である。とにかくでかい。人力では1機当たり20人で5時間かかるが、これを使うと、5人で1.5時間で済むそうだ。効率は極めて高いが、稼動しているところを見られなかったのは残念であった。

4. 機体整備

乗客の生命に関わる大切な部門の為、かなりの人数をかけて丹念に点検整備が行われていた。ただ貨物機はポリッシュスキンと称して無塗装であるが、塗料重量だけで150kgにもなると言うのは驚きであった。

5. 排水処理

最初に油分離槽で油膜を生成分離した後、触媒による酸化処理の後、通常活性汚泥処理を行っており、通常、工場ではここまでの処理にとどまるが、この後、次亜塩素酸処理、活性炭吸着処理と、上水道並の処理を行っていたのはさすがである。最終段の貯水槽で大きな鯉が悠然と泳いでいたのは言うまでも無い。

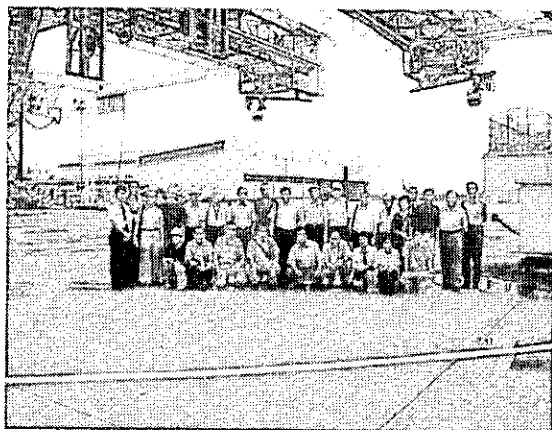
6. 環境社会活動

我々が全く認識していなかったのがこの点、即ち上空のCO₂濃度測定と森林火災発見情報である。前者については、オーストラリア・日本間の定期便に「自動大気採取装置」を取り付け、上空の空気中に含まれているCO₂等の温室効果ガスを定期的に観測するもので、その成果は「第3回宇宙からの温室効果ガス観測に関する国際ワークショップ」でも報告されている。(地球環境研究センターニュース

又、森林火災発見情報に関しては、日々シベリア上空を通過している JAL 欧州便のパイロットによる上空からの火災発見情報の提供で、2005 年の実績は 30 件であった。これは地球環境上極めて大きな貢献と言えるのではなからうか。

おわりに

「極めて充実感のある見学会であった」と言う感想は、私ひとりではなく全員同感いただけることと確信する。これは、吉田様、工藤機長ほかスタッフの皆様並びに現場で対応戴いた方々の心のこもった対応によるものと、深く感謝申し上げます。



自動洗機場にて

☆☆ 秋季研修会の報告 ☆☆

茂利 晃

平成 18 年 11 月 25 日 (土) 幕張・海外職業訓練センター (OVTA) において秋季研修会が開催された。テーマは「環境カウンセラーの今後のあり方と EC 千葉県協議会のさらなる活性化」である。午前中は土田理事長の「EC 千葉の活動について」と環境省環境教育推進室北沢室長を迎えて「環境カウンセラーに期待すること」の講演を拝聴した。

午後はワークショップで「環境カウンセラーの今後のあり方と EC 千葉県協議会のさらなる活性化」を話し合い、さらに夜の部では各グループの発表と締めを行なった。今後の協議会の運営は新規事業について調査活動を行なった。専門分野にとどまらず、活動意志のある会員から人材を確保することが望まれる。

環境カウンセラーに期待すること

長谷川 三喜雄

北沢室長より講演頂いた「環境カウンセラーに期待すること」の主旨は次の通りであった。

環境問題とは?とのイントロからご自身の見解を述べられ、環とはまわる・カンであり、境とはさかい・キョウであり、人・物体のまわりからの環境作用(光)があり、その関係の中で分散形成作用がおこり、それに如何に順応できるか、また予防できるかを問われることである。

被害(質・量・空間・世代を含んだ時間)とは、1に健康、2に生態系、3に財産、4に快適性に及ぼされる事であるが、こうむる被害には不公平があり、

1に世代内(弱い人へ)、2に世代間、3に人以外の生物に及ぼしてくるのが環境問題ではないかと解説された。

環境問題は 1945 年ごろから始まり、公害・自然破壊が生活系の問題となり、やがては被害者が加害者となる地球規模の環境問題となってきた。然るに環境問題を自分の問題として捉えていない人が多い。この状態をどう変えていったら良いのか、出来る事からやっつけていこうと身近なものから始めている人が確実に増えている。

今世界的に、持続可能な開発の為の教育(ESD)の実施計画の実行を推進している。環境省としては他省庁と協力して各地域での ESD の取り組みを、様々な事業等を通じ支援していく。環境カウンセラーが誕生してから今年で 10 周年になる。環境カウンセラーは現在 4000 人になるが 5500 人規模にしたい。中学校が約 11000 校あるので 2 校に 1 人程度に増やしたい。環境カウンセラーに期待することとしては

- ①個人的に環境問題を考えていく
 - ②企業・団体は集団として環境問題を考えていく
 - ③グループ間の協働のパートナーシップを高めていく
- 以上のそれぞれの場面で、スペシャリストとして助言・コーディネートして働きかけていくことである。

環境省としてはこれまでの 10 年の経過を踏まえて戦略を考えていく出発点にしたい。出来るだけ早く戦略を形にしたいので、皆様の協力をお願いすると結ばれた。

今回の研修では、環境省が「環境カウンセラーに何を期待しているか」を直接聞く事が出来、大変有意義であり、また「環境問題とは」と問われた時に自分ならどう答えるか、そしてこの問題の解決にカウンセラーとしてどう答え行動していくか、カウンセラーとしてまだ活動実績の浅い自分としては、考えさせられた一日であった。

千葉の「鮭」をたずねて

遡上南限の栗山川周辺の観察会報告

林 正 徳

12月9日、生憎く雨の降る肌寒い日、JR横芝駅の駐車場に9時30分に参加者15人が集合、車5台に分乗し、第一目的地「横芝河口堰」に向った。

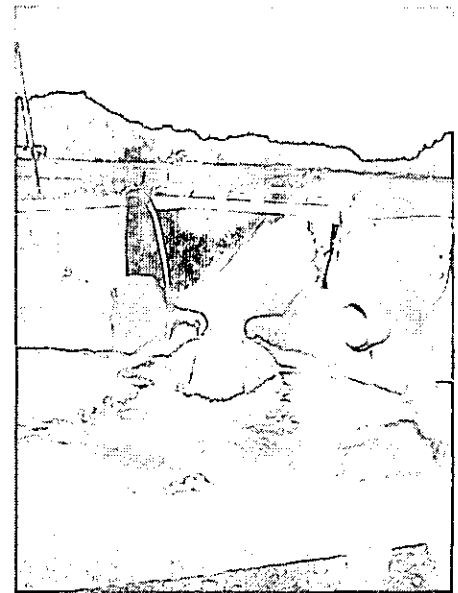
河口堰では石井組合長始め、地区の漁業組合の方々が数人集まっていて、早速鮭の捕獲の実態を見せていただいた。河口堰の脇の捕獲魚道には数匹の体長50cm~1mほどの鮭がうごめいており、胸まで延びた長靴を履いた漁師さんがこの産卵前の鮭を一匹ずつ網を使って慎重に捕まえる作業であった。当日の漁獲は10匹前後であったが、年間750~1500匹程度漁獲されるとの説明があった。捕獲される鮭の他に、最近整備された魚道を通って更に上流へ上がっていく元気な鮭もあるとのこと。捕獲された鮭は近くの孵化場へ運ばれ、解体された上、取り出した卵の上に白子をかけて孵化設備に入れられ、春に稚魚になるとこどもたちの手等で栗山川に放流され、海に帰っていく仕組みである。

鮭は非売品で、お昼の鍋料理の材料とする切り身のほか、おみやげとしていただけるとのこと、1匹まるごと持って帰られたハッピーな人もいた。

11時ごろ孵化場を出発、上流20キロを遡って多古町の『桜宮自然公園』に向かい、13時ごろ全車そろって目的地に到着、責任者の所さんの出迎えをうけた。所さんは、この自然公園の実現・その後の整備や、鮭の遡ってくる栗山川水質保全・魚道整備に尽力されている方であった。

公園内の集会所（ビニールハウスを改造したもので、雨・風がしのげて中は結構暖かい）に案内され、一部の方々には早速『石狩鍋』の準備をお願いしながら、他のメンバーは一息ついて、くつろいだ雰囲気、話を伺いました。廃棄物処分予定地がこの自然公園になった経緯や、鮭の遡上が地元で活気を呼び起こすお話など、訥々と語られる所さんの貴重なご体験は空腹を一時忘れさせる大変魅力的なものであった。

そのうちおいしそうなおいとともに『石狩鍋』が出来上がり、全員で日本一おいしいと言われる多古米のおにぎりと一緒に大変おいしくいただいた。心身共に暖かくなったところで、雨の中、自然公園を案内していただいた。「桜宮自然公園」は手入れの行き届いた広い自然公園で、晴れた日に再びゆっくり見学する機会を持ちたいものと思った。



新たな魚道：現在の鮭の最終到達点、河口より約20km！
目指せるか山倉神社（山口由富子氏提供）

見学のあと「所さん取っておきの鮭見学点」に案内していただいた。そこは古来には鮭の到達点であったといわれる山倉神社・旧香取郡山田町（阿部さんのバイオ施設のある町）の下流約1kmの地点である。

あいにく当日は雨のため川は増水しており、濁っていたので、鮭を見ることは出来なかった。下見（11月8日）の時は姿が見られたのに真に残念だった。

最後に多古の道の駅「あじさい園」に集合し、びっくりする程安い、新鮮な農産物や園芸品を買込んだ。17時頃現地解散した時は、外はもう暗くなりかけていた。天候に恵まれなかったのは残念であったが、盛りだくさんの内容を何とか無事にこなすことが出来て、ほっとした。

東金アースセレブレーションに参加

1月20日（土）『東金文化会館』において東金アースセレブレーションが挙行された。

今回は「森」をテーマに、市当局とも協議の結果、ソーラーカーの実演と、バイオガス自動車の展示、森林の機能のパネル展示をした。

このイベントは付近の小・中学校の環境絵画コンクールや、猪坂さん（当協議会会員）の「自然の題材を使った工作教室」もあわせたもので、従来こどもの参加者が多数あった。今回は天候不良のせい少し寂しい感じがしたが、その分十分対応でき、又地元活動家と協議会関係者の交流も進んだのは有益であった。

次回は主催者側と早めに話し合いを持ち、意図に沿った展示構成としたいと考える。（林 記）

平成19年の環境再生の願い

廃棄物対策センター 大山長七郎

新年になって地球温暖化の影響を報告する報道が目立ってきた。今年には京都議定書採択から10年目となる。世界各地で異常気象、生物の異変、温度上昇の影響が報告されている。気象の乱れについてはこの数年特筆すべき現象が次々と発生している。日本でも大きな竜巻が発生し、身の回りでは庭木の昆虫分布の変化が気になってきた。

日本では春夏秋冬の四季があり、各季節ごとに代表的な生き物が見られる。梅に鶯、夏には蝉、蛍、実りの秋は収穫に忙しく、冬は雪。暦に古代中国の24節季を取り入れ生活を合わせてきた。今年には特に年初から、この一年が思いやられる暖かさである。米食が基本のわが国では南北に長い列島の、各地に適した品種の米があるが、九州ではすでに作柄の低下が見られ、気温に見合う品種の開発が必要となっている。モモ、リンゴ、ミカンなど果樹も同様に栽培適地の北上が進んでいる。

南太平洋の国「キリバス」から来日中のトン大統領が国土水没の危機に直面していることを訴えている。海面上昇は日本でも脅威である。

白井市環境フォーラムに参加

大山長七郎

「自らの手で守ろう ふるさと白井の自然と環境（しろいの自然発見）」をテーマに1月27日（土）白井市文化会館中ホールでフォーラムが開催された。実行委員長は当協議会辻川毅氏である。自然と生き物、EM菌活用のプール清掃と金山落の浄化活動、学校ビオトープ作成、エコ工業団地について等の発表は感心する内容であった。基調講演は東邦大学・長谷川雅美教授の「22世紀のしろい・自然、文化、科学を語る」で白井市の過去・現在・今後のあり方を再発見するものであった。

展示ホールでは16団体がパネル発表を行なった。当協議会は地球温暖化防止、資源リサイクル、廃棄物不法投棄防止のPRコーナーを設置して市民に対応した。近くの八千代市工業団地の硫酸ピッチドラム缶（2176本・処理費用7300万円）撤去問題もあり、未開発の土地が多い白井市にとって、身近な問題として来場者の関心を集めた。

国連の「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の予測を上回る地球の平均気温が20世紀末から21世紀末までに1.1～6.4度上昇し、大気や海洋の循環が大きく変動すると米国科学誌サイエンスに発表されている。米国の経営者、シンクタンクなどがようやく温暖化ガスの削減義務化を提言している。原油高もあり、日本製自動車のガソリンと燃費の良さに関心が向き、市民は車の乗換えをしている。

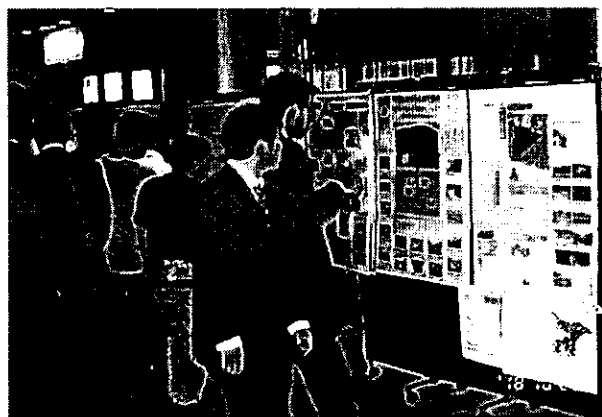
我々の身の回りに投棄されている色々なごみ。袋、PET、空き缶、ナベ、日用品、テレビ、洗濯機、クーラー、ガス台、オートバイ、自動車解体屑、タイヤ、ベッド、ソファ等品目を挙げたらきりが無い。家庭、事業所ではドラム缶を焼却炉に用いて煙を上げている。自分の身の回りだけがきれいになればという人が多い。

香川県豊島の産廃問題がすでに30年以上経過し、59万トンの処理費用として500億円掛かると発表されている。千葉県内の不法投棄は389万トンで、撤去費用は1561億円とされ、現在も増加している状況にある。環境再生計画の見直しが進み、去年はタウンミーティングが開催されたが、中・長期間の対応を早急に関係者で検討することが必要である。30年以上かかることは間違いない。

環境保護につながる活動をする人が5%以下とは残念なことである。廃棄物対策センターは本年、地球温暖化防止、廃棄物の再資源化・リサイクル（焼却量削減）と不法投棄防止（環境再生）の3本柱で活動を進めていく予定である。

一☆昨年の活動から☆一

下の写真は千葉市・青葉の森公園芸術文化ホールにおける千葉県産業廃棄物協会主催の「産廃適正処理セミナー」会場における展示風景。



9月5日、10月26日の2度実施され、約1500名の処理業者の参加があった。不法投棄防止のPRのため、廃棄物対策センターでは毎年展示を行なっている。一人でも多くの方に実状を見てもらい、不法投棄、不法処理がなくなるよう、考えて欲しいものである。

総務部からのお知らせ

寄付金 (2006年8月4日～2007年1月26日)

有馬富穂様	20,250円	土田茂通様	25,000円
福井信行様	24,000円	戸村泰様	2,250円
西田啓作様	15,075円	山本光男様	87,000円
二宮恵様	33,750円	種本利治様	1,500円
青木誠様	1,500円		

有難うございました。

第5回通常総会のご案内

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会の第5回通常総会を下記の通り開催します。

1. 日時：平成19年5月27日(日)13時～16時45分
2. 場所：千葉市民会館 (特別会議室2)
3. 内容：①総会議事

②特別講演会

「自然環境保全と環境カウンセラー」

—美しい日本の自然保護に取り組んで半世紀—

講師：小角 浩 氏

NPO 環境カウンセラー全国連合会理事・当会顧問

(財) 国立公園協会調査役

自然公園指導員 (環境省自然環境局嘱託)

袖ヶ浦市「水と緑の里」整備検討委員会委員長

4. 懇親会 同日17時～19時

(新入会員歓迎会を兼ねます)

会場：千葉市中央区新千葉1-1-1

千葉駅ビル5階・ペリエホール

会費 5000円

☆ 詳細は4月中旬に往復ハガキでご案内します。

ECU 便り

ECU (NPO 法人環境カウンセラー全国連合会)はその最大の使命として、全国の環境カウンセラー(EC)の地位向上とEC制度の維持・改善を目指して、様々の活動をしている。

昨年10月にEC制度発足10周年及びECU設立5周年を記念してオープンフォーラムを環境省後援で開催し、大勢の参加者と共に環境の重要性について議論をした。その内容とEC制度とECUのこれまでの経緯などを貴重な資料で整理した、記念誌を3月には発行する予定になっている。

「環境カウンセラー」もこれまでの10年の活動で地域でも、中央でも認知度が高まってきたのではないだろうか。今後もECが益々活動できるよう、ECUもサポートしていくつもりである。

よろしくご支援くださいますようお願いいたします。

(戸村 泰)

編集後記

♪ 本号が今年度の最終号となります。

3年間、至らぬ私を支えてくださった広報部の皆さんにお礼を申し上げますと共に、執筆していただいた多くの会員の皆様にも感謝致しております。

次号からは新たな広報部となりますが、これからも、よろしくご支援の程お願い申し上げます。

(本間 格)

♪ 昨年秋には印旛沼・手賀沼でも鮭の遡上が報告されています。水質がよくなっている証でしょう。いよいよ春！4月には筑波山の観察会があります。協議会においては自然に触れる行事が増えました。環境カウンセラーの事業者部門と市民部門のコラボレーション！☆今後は楽しみになってきました。

(倉田 智子)

広報 環境カウンセラーちば 第30号 (発行日 2007年3月1日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：土田 茂通 会員：124名)

URL：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 本間 格・倉田智子・二宮 恵・大山長七郎・松本源寿・石黒 忠・佐藤素子

E-Mail fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp (記事寄稿先)

(古紙100%再生紙使用)

広報

環境カウンセラーちば

第31号
 特定非営利活動法人
 環境カウンセラー
 千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
 環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

新年度のスタートにあたって

理事長 戸村 泰

私は、5月27日に開催された平成19年通常総会・理事会において、理事長を拝命しました。当協議会が発足から小角 浩氏、村上 利子氏、土田 茂通氏に続いて、4代目を数えます。

歴代の理事長はじめ諸先輩の方々の情熱と実行力が今日に引き継がれて立派に活動しているこの協議会の伝統を汚すことなく、更なる発展のために精一杯努力したいと思います。役員はじめ全会員の皆様のお一層のご支援ご協力をお願いいたします。

また今総会は、会設立以来最も多い会員の出席(100名、表決委任者53名を含む)のもとに開催できました。18年度の活動報告と決算及びそれらの監査報告、19年度の活動計画と予算ならびに新役員の選任のご承認をいただいたことをご報告し、皆様のご協力を厚く御礼申し上げます。

今年は当協議会が発足して10年目、NPO法人化して5年目の年に当たります。また、環境カウンセラー制度(環境省の告示による登録制度)が発足して11年目となることと合わせて、我々の活動に思いをめぐらしたとき、世の中の情勢が近年大きく変化してきていると感じます。一つは、温暖化を含めた地球規模の環境問題がより深刻化し、また人間社会のより深い部分に根ざした問題、すなわち、「経済活動や政策選択と環境」といった側面が次第に大きくなり、その解決のための活動には、より広い知識と知恵が必要となってきています。

一方、環境カウンセラーや当協議会の活動が、国の中央の行政や各地域において認識されつつあり、わずかながら我々の活動の場の広がりを感じられます。千葉県内においても、環境省関東地方事務所と協働で「エコメッセ in ちば」に出展、県の環境学習基本方針の策定



のための検討会に参加、県下の行政(県、市町村)との協業、商工会議所や企業との環境経営の分野での協業、学校や教育機関との環境学習の分野での協業、他のNPOとの協業などが多く実施されつつあります。

こうした状況から今年の活動は、次の3つを主題に掲げたいと思います。

1. 当協議会本来の使命である、外部の活動主体への発信と協働をより活発にすることに努力しましょう。
2. 会員は、社会の新たな動きを十分に注視し、各人のこれまでの知識と経験だけに頼るのではなく、新しい知識や知恵を研修や自己研鑽で学習しましょう。
3. 我々の活動は基本的に環境保全活動を通じて世の中を良くしたいというボランティア精神がベースです。その活動の原動力は、活動を通じて達成感や生きがいを持つこと、そして仲間との共同活動の楽しさだとも思います。

「活動する本人が楽しい、参加するみんなが楽しくなる活動にする、そして世の中が良くなるならもっと楽しい。」となるよう努力していきしょう。

〔平成19年度役職一覧〕

第5回 通常総会

第5回通常総会が平成19年5月27日(日)に千葉市市民会館会議室において開催されました。総会に続いて当会顧問小角浩氏による特別講演が、さらに夕方からは懇親会(兼・新入会員歓迎会)が行われました。

会員総数128名に対し、当日総会出席47名、表決委任53名で、定款第24条による通常総会として成立し、土田茂通理事長を議長に選任して次の議案を審議し、いずれの議案とも賛成多数で承認されました。

第1号議案「平成18年度事業報告ならびに決算報告」

第2号議案「平成18年度監査報告」

第3号議案「平成18年度事業計画案ならびに予算案」

第4号議案「役員を選任」

当協議会は、平成15年7月にNPO法人へ認証登録をし、その後も組織・活動体制の拡充を進めてきて、環境保全に関わるNPOとしての県内での知名度も年々高まってきております。その結果、平成18年度には、県NPOパワーアップ補助金を受け、環境学習活動に新たな展開をはかることができました。また、本格的に普及活動を開始して2年目となったEA21については、県環境財団(EA21地域事務局)と連携し、普及・啓発に着実な歩みを進めることができました。

平成18年度収支実績(平成19年度見通し)はプラスとなりました。収入の大半を支えていただいているEMS支援センター関係および個人の寄付、また支出に関して表に表れていない多くのボランティア的活動に対し深甚の謝意を表するものです。

役員を選任においては、平成19、20年度を任期とする理事、監事が選任されました。

さらに、この度「アドバイザー」制度が設けられ、大山長七郎、林正徳、小関光二、大木久光の各氏が委嘱されました。

総会に続いての臨時理事会において、戸村泰氏が新理事長に互選され、理事の役職は別表のとおりに決まりました。

なお、今回の総会開催案内に対して114通の返信をいただきました。会員の皆様のご協力にあらためて感謝申し上げます。私たち役員一同、当協議会の活動の一層の活発化・前進に努めてゆく所存でございますので、これまで以上のご協力、ご支援を今後ともいただきますようお願いいたします。

(事務局長 服部 達雄)

理事長	戸村 泰
副理事長	國廣 隆紀
副理事長	服部 達雄
副理事長	二宮 恵
事務局長	服部 達雄
事務局次長	長谷川 三喜雄
総務部長	古畑 義正
総務部副部長(会計)	青木 誠
総務部副部長	種本 利治
事業部長	古畑 義正
事業部副部長	長谷川 三喜雄
事業部副部長	上口 清彦
事業部副部長	茂利 晃
広報部長	倉田 智子
広報部副部長	本間 格
広報部副部長	上口 清彦
情報部長	國廣 隆紀
情報部副部長	有馬 富徳
EMS支援センター長	二宮 恵
EMS支援副センター長	西田 啓作
EMS支援副センター長	野口 康男
EMS支援副センター長	種本 利治
地球温暖化対策センター長	辻川 毅
地球温暖化対策副センター長	服部 達雄
廃棄物対策センター長	石黒 忠
廃棄物対策副センター長	大山 長七郎
環境学習センター長	種本 利治
環境学習副センター長	阿部 邦夫
環境学習副センター長	小野 鈴子
環境学習副センター長	中庭 武雄
環境学習副センター長	林 正徳
相談役	土田 茂通
監事	廣川 一男
監事	藤田 忠宏
監事	吉海 照直
顧問	小角 浩
顧問	荒野 喆也
顧問	有馬 富徳
アドバイザー	大山 長七郎
アドバイザー	林 正徳
アドバイザー	小関 光二
アドバイザー	大木 久光
ECU担当	土田 茂通
ECU担当	小角 浩
ECU担当	本間 格
EA21地域事務局職員	野口 康男

「自然環境保全と環境カウンセラー」

—美しい日本の自然保護に取り組んで半世紀—

講師 小角 浩氏

(NPO 法人環境カウンセラー全国連合会常務理事、
 本会顧問、自然公園指導員他)

世界で最初の国立公園として知られるアメリカ・イエローストーン国立公園は、1872年(明治5年)の指定である。近年では自然発生山火事の自然鎮火、絶滅したハイイロオオカミのカナダからの移入、等諸々の施策導入が図られ、制度的充実と共に先駆的なシステムを維持している。

日本における国立公園は、1934年(昭和9年)3月瀬戸内海、雲仙、霧島が、同年12月に阿寒、大雪山、日光、中部山岳、阿蘇国立公園が、1936年(昭和11年)2月に十和田、富士箱根、吉野熊野、大山が指定された。いわゆる戦前指定12公園である。

当初は「国立公園法」によって指定されたが、1957年(昭和32年)「自然公園法」が制定され、以来、1987年(昭和62年)7月指定の釧路湿原を最後に、現在28地域が国立公園に指定されている。

この間、自然環境保全関連では、1980年(昭和55年)10月にはラムサール条約と同年11月にワシントン条約の国内発効があった。

1975年(昭和50年)5月、原生自然環境保全地域に南硫黄島と屋久島(その後、大井川源流部等が追加され5地域)が、自然環境保全地域に早池峰、稲尾岳(その後、大平山等が追加され10地域)が指定された。また同年10月、国際環境教育ワークショップでベオグラード憲章が宣言された。

1993年(平成5年)白神山地、屋久島が、2005年(平成17年)には知床が世界自然遺産に登録されるに至った。等の制度的整備が図られてきた。

今年(平成27年)は自然公園法制定50周年に当たると同時に、小角氏の社会人生活50年目であることから今回の講演となった。

小角氏は、1957年(昭和32年)に厚生省大臣官房国立公園部に採用され、大山国立公園を皮切りに、各地の国立公園をはじめ、県庁、環境本庁等で業務に当たられたが、1958年(昭和33年)初代阿蘇国立公園長者原駐在レンジャー時代は、事務所もなく一時旅館の一室で執務し、レンジャーの存在を認知されるよう地元の機関・人々との交流に尽力された。また、施設整備事業では、直轄・補助・県単に拘らず、公園内外の現場にも立ち会ってきた。



後年、道路公団による「別府阿蘇道路」協議の際には、「波状丘の連続する飯田高原において、道路建設に伴う切り取り・盛土法面にラウンディングを」と言ったところ「どこで習われたか知りませんが、今の日本では1kmでも先に延ばすことが先決ですよ」と笑いとばされかけたことなど、縦割り行政の最中で自然環境保全のために熱心に改革する姿勢と歴史的変化の側面を紹介いただいた。

1982~1985年(昭和57~60年)には、富士箱根伊豆国立公園管理事務所長に着任した。当時、開発に対して特別保護地域の人為干渉を否定する反面、そのことでより繁殖力の強いヨシが湿原植物を被圧し、ススキの草原へ灌木類が侵入するなどの事態が起こっていた。

そのため地元学識経験者、関係行政機関等に呼びかけ、天然記念物・特別保護地区指定根拠である「箱根仙石原湿原植物群落」の保護・回復の検討を開始した。

指定当時の文献・資料を収集し、変遷過程を明確化し、現存植生調査を実施したうえで、放置、刈り取り、野焼き等の比較対照区を設けて、その追跡調査を重ねる等慎重な検討の結果、今日見る野焼きの実施による湿原植生の保護、ススキ草原の維持等、指定当時の植生への回復を図った。このような自然環境保全への行政的・技術的対応についての貴重な体験を紹介いただいた。

1985~1997年(昭和60~平成9年)は尾瀬林業株式会社に勤務し、尾瀬の豊かな自然環境保全に努められ、現在も豊かな経験を生かし、地元地域をはじめ多方面で活躍する一方、私たち後輩の指導に携わっておられます。最後に、生物多様性の3つの危機として

- ① 人間による自然の破壊
- ② 里山などへの人間の働きかけの減少
- ③ 外来種や化学物質の影響

を挙げ半世紀にわたる豊かな体験から、私たちに幾つもの示唆を頂きました。平成8年の環境カウンセラー制度発足と同時に事業者・市民部門で登録した大先輩です。

(中庭 武雄)

上高地への誘い

顧問 小角 浩

古くは「神河内」の名にも相応しいとされた上高地も、戦後の大規模水力発電構想、昭和30年代、井上靖の「氷壁」に代表される登山ブームに伴う遭難事故多発、更には40年代マイカー時代の到来による深刻な渋滞問題、加えて、その解決策のひとつとして積年の構想復活を図る大滝山越え徳沢への車道建設計画等々、幾多の問題をかわしながら今日に至っています。

昭和50年以降実施されている「マイカー規制」はその後各地で行われている施策の嚆矢とされていることは夙に知られているところです。

今回の自然観察会集合地点はまさにこの発祥の地「沢渡」です。シャトルバスで梓川の溪谷を遡り、「釜トンネル」を抜けて焼岳から大正池を回りこんだところで展開する穂高の景観は、何時眺めても心改まる想いです。

標高およそ1,500メートル、上高地の中心とされる河童橋近くの「ビジターセンター」で、世界的に知られる「ベラン・フィールキント工房」(インスブルグ)製作の鳥瞰図をはじめ山岳写真家の作品、その他の展示資料等を通じて地域の概要を先ず認識しましょう。

今回、宿泊は自然公園財団の「公園活動ステーション」を貸切で使用させて頂くことになっているので、当日の天候にもよりますが、初日午後は身軽ないでたちで下流側、小梨平～田代池周辺を、翌日は上流側、明神池辺りまでを観察する予定です。

わが国の山岳公園を代表する中部山岳国立公園南部の利用拠点として整備された当地でも、近年は周辺交通網の整備により、圧倒的に日帰り利用が増大していますが、その景観の真価を会得できるのは朝夕、斜めの光線の時です。折角の機会でもあるので、この時間帯はそれぞれ静かに自然との対話を心掛けて頂きたいと思います。

今年は国立公園制度の現行法「自然公園法」制定50周年に当たり、環境省では珍しくも五木ひろしをモデルに梓川の畔から河童橋越しの穂高を題材に「美しい日本の自然へ、でかけよう」のPR用ポスターを作りました。まさに、この呼びかけに応じた如く？上高地での自然観察会を計画したECCの広報誌での使用許可をお願いしましたら、快くOKして頂きました。

残るは当日の天候です。斎戒沐浴を心掛け、日々、ボランティア精神で過ごしましょう。

「神河内」はあなたを待っています。



ポスター本体の説明文は

「四季のある日本、この国を代表する、美しい自然のある場所が自然公園に指定されています。自然公園は3種類。全国各地に28の国立公園、55の国定公園、309の都道府県立自然公園があります。国や都道府県では、美しい自然の風景をそのまま未来へ手渡すために自然保護の努力を重ねています。更に、もっと自然とふれあい、楽しんでいただくために保全整備などの取り組みもすすめています」と続いています。

五木さんはその名の示すとおりの日本の美しい自然を守るため、「Green Earth 21」実行委員長として、仲間を募って自然公園の中でコンサートを開き、その益金で、地球温暖化の主因となるCO2を減らすため、吸収源として大切な「緑の育成」を目的に、「明日の地球を育てる」をスローガンとして植樹活動を進めています。

国民各界各層の各主体が、それぞれの立場で仲間と共に、それぞれの出来るところから実行している中で、私共も、ECCとして、また構成メンバー各自が、それぞれの地域社会で活動の輪を広げることが、ひいては地球環境の保全に通ずることをひそかな誇りとして、焦らず、弛まず、一粒の種が多様性の保たれた環境の中で、やがて大樹に育つことを信じて、楽しく一步一步を確実に進んで参りたいものです。

平成19年度環境学習センター活動計画

当センターの今年度の活動計画は3項目です。

(1) 高等学校における環境学習の積極的展開

2006年度千葉県NPOパワーアップ補助金事業「高等学校における環境教育カリキュラムのパワーアップ」の活動実績をさらに発展させます。

今年度は「高校のニーズと特性にマッチさせた環境学習プログラム作りとそれに基づく環境学習授業の実施」というテーマで同事業に申請し、昨年に続き採択されました。具体的な実施計画は次の通りです。

- ①新規2高等学校における環境学習授業の実施
- ②既開発プログラムの改善・充実と新規プログラムの開発（小中学校や一般向けへの再編集及び実験機材開発とマニュアル整備を含む）
- ③講師陣の相互研修とレベルアップ
- ④新規受入校の開拓（各地の環境イベントでの講座紹介、高等学校及び教育関係機関への広報活動を含む）

(2) 自然観察会実施

- ①上高地自然観察会：9月21日（金）～22日（土）
 - ②千葉の自然に触れる観察会（日帰り）
 - ③関東の自然に触れる観察会（日帰り）
- 日程は別途ご案内します。

(3) 環境学習センター運営会議の定期的開催

従来同様、原則月1回の運営会議を開催します。今年度は特に次の2点を重点に考えています。

- ①運営会議の前半は研修会を行い、センター員のレベルアップを図る。
 - ②役割分担を明確にし、特定の個人への負荷集中を避け、多くの人が参加・協力する態勢を整える。
- さらに情報の共有化も重要です。現在会議議事録、行事記録、事業企画、事業成果、センター運営要領などを公開しています。

環境学習事業を会の太い柱の一つとして育てるために、組織をあげて推進体制の強化を図り、一人でも多くの皆様が環境学習センターの活動に参加されることを願うものです。

（環境学習センター長 種本 利治）

平成19年度EMS支援センター年間計画

1. 研修及び内部の活動

毎月、研修会及び運営連絡会議を開催し、研鑽と各種方針を決定する。又、2月、5月に幹事会を開催し、反省と計画を議論する。

2. 主な行事

(1) 第10回企業環境セミナー（参加費：1,000円）

10月19日（金）午後 千葉商工会議所

基調講演：環境マネジメントシステムでの

中小企業の生き残り作戦（吉野定治）

テーマを決めて3分科会に分かれ意見交換

分科会①ISO14005（環境マネジメントシステムの

段階的实施）でISO14001を見直そう（廣川一男）

分科会②組織経営に効果が少ない環境マネジメント

システムの問題点と対策（山本光男）

分科会③内部監査で効果をあげるには（西田啓作）

(2) 内部監査員養成講座（千葉商工会議所：3万円）
大変人気があり、毎回満員。

環境（ISO14001）：①5月15・16日

（終了：参加者23名）

②9月5・6日（募集中）

③1月29・30日

品質（ISO9001）：①6月21・22日

（終了：参加者24名）

②11月29・30日

(3) エコアクション21普及セミナー（無料）

①8月24日（金）午後 千葉商工会議所

・今、何故、エコアクションか？（西田啓作）

・EA21の取組方法とそのメリット（種本利治）

・事例紹介 EA21に取り組んでの成果 2件

・EA21認証・登録の手続きとそのポイント

②開催予定：秋から来年／大きな普及セミナー

③開催予定：各地で小セミナー

3. 支援活動（講師派遣）

(1) ISO14001、ISO9001構築・維持支援ならびに関連セミナー

(2) EA21構築・維持支援ならびに関連セミナー

（環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵）

村上利子氏（二代目会長） 受賞おめでとうございます

6月11日表彰式

地域環境保全功労者としてEC千葉が推薦し、環境省関東環境事務所が環境大臣に推薦して受賞が決定。村上氏は平成14年千葉県環境賞（千葉県知事）を受賞。千葉県公害対策審議会委員・千葉県環境審議会委員・千葉県環境審議会副会長の歴任やEC-千葉、ECUにおける活躍が評価されたものです。

役員紹介

青木 誠 (あおき まこと)

事業者部門 理事 (総務部副部長) ・ 柏市

東京都出身。医療機器製造会社で入社以来25年間モノづくりに携わってきましたが、11年前より環境管理の仕事に就いています。あと1年余りで定年になりますが自分の経験を中小企業への環境経営普及に活かしたく、EA21やKESの普及をライフワークにしたいと思います。EMS支援センターに参加し、主に地元柏周辺のEA21普及に係わっています。本年度より会計を担当します。

上口 清彦 (かみぐち きよひこ)

事業者部門 理事 (事業部・広報部副部長) ・ 野田市
居住地で水処理を主業務とする会社で地域からの環境相談を受け、提案をしております。

私の専門分野が当協議会に寄与できるように、努力いたします。どうぞよろしくお願い致します。

中庭 武雄 (なかにわ たけお)

市民部門 理事 (環境学習センター副センター長)

柏市

私は、東京都で中学校教員当時全国小中学校環境教育研究会に所属し、環境教育充実を目指し研究・実践・研修会・本の出版など仲間と企画・実践してきました。

退職後は、環境カウンセラーに登録し、環境学習教材を開発し、学校や地域の環境学習の支援が出来るようになりたいと願っております。

今年は、皆様方のご指導ご支援を頂きながら役職を果たせるよう全力を尽くす決意しております。皆様が今まで培ってこられました素晴らしいお力を、学校・地域の環境学習を支援するネットワークづくりに生かすために努めたく思っております。

長谷川 三喜雄 (はせがわ みきお)

事業者部門 理事 (事業部副部長、事務局次長)

松戸市

この度、総会にて新役員に就任することを了承していただきました。事業部と事務局の仕事を、諸先輩の後を引き継いでお手伝いをしていく事になりました。退任される役員の諸先輩の方々、本当にご苦勞様でした。新しい役員の一員として皆様に恥じないように一生懸命務めてまいります。なにぶん不慣れな為色々ご迷惑お掛けする事があると思いますが、よろしくご指導の程お願い致します。

新入会員紹介

田中 利彦 (たなか としひこ)

市民部門・船橋市

20年以上、野鳥観察会の運営等行ってきました。造園コンサルタント会社に勤務しており、仕事でも生物調査や緑地計画に関わっています。自然観察指導員や生物分類技能検定1級の資格を持っており、こうした経歴を活用できないかと思い、応募しました。ただ、平日に活動できない勤め人で、残業も多く土日ままならないので、果たして環境カウンセラーとしての務めを果たせるかどうか、不安になっているところです。

花木 信 (はなき まこと)

市民部門・船橋市

1966年1月生、1988年3月大学物理学科卒。

現在、設備会社船橋支店長、下水道設計に携わっております。私は小さい頃から生き物が大好きで、また趣味の魚釣を通して環境保全の重要性を感じました。

これからは環境カウンセラー、コンサルタント両面から環境保全の重要性をアピールして行きたいと思っています。

久保 博海 (くぼ ひろみ)

事業者部門・浦安市

非鉄金属製造業の操業管理者として、公害防止技術の改善、環境管理、省エネ・省資源対策、リサイクル等の業務に従事。その後経営者として環境管理システムの運用・是正・監査等に従事した。退職後、環境関連の大学・大学院にて学び、LCAの研究等を行った。

専門分野は大気、水質、環境マネジメント・監査、廃棄物、リサイクル、エネルギー、化学物質、LCA。大学のセミナー講師の他、小売業の統合マネジメントシステムの構築に関与。また、浦安市の環境審議会委員、市民会議委員として活動中。

吉田 昌弘 (よしだ まさひろ)

事業者部門・木更津市

1969年大学工学部卒、製油会社(地球環境室所属)を2007年3月定年退職。

化石燃料・バイオ燃料の品質技術。省エネ技術。土壌汚染対策。環境社会影響評価などの経験あり。

地域への環境ボランティアでの貢献。千葉県地球温暖化防止推進員として、木更津市の仲間と「市民への教育や啓発方法」等について活動を開始した。

八千代市施設見学

吉海 照直

平成19年2月22日(木)見学会は、いずれも太陽光発電システムを採用している施設で、参加者は14名。

1. 石井食品八千代工場

ハンバーグ、ミートボールを製造、販売する会社です。品質と環境を大切にしている経営の考え方と積極的な取組の様子をうかがうことができました。

(1) 環境保全活動

様々な環境保全活動の中で、太陽光発電システムはNEDOとの共同研究事業として設置、2005年12月稼働。発電規模100kWで、工場での使用電力の約1%、直接のCO₂排出削減(36.5t-CO₂/年)に加えて、稼働データのNEDOへの報告を通して太陽光発電システムの効率向上研究を助け、今後の普及に寄与することでの貢献が大きいと思われました。また包装方式の工夫による省エネ紹介などもありました。

(2) マネジメントシステムの活用など

既にISO 9001とISO 14001の認証を取得、現在ISO 22000(食品安全マネジメントシステム)の取得を目指しています。「品質・環境活動報告書」の法律コーナーには、品質・環境の取組状況のほか、法律関係の記載もあって好感がもてました。

2. 八千代松陰学園

約13万m²のキャンパスに中学校と高等学校があり、生徒数は2800人。

(1) 太陽光発電システム設置の狙い

温暖化ガスを発生しないクリーンエネルギーを使用すること、電力のピーク時の使用量を低減して電気の基本料金を低く抑えること、そして地球環境にやさしいエネルギーの使用を通して環境教育に役立てたいとのことでした。教育事業の分野において民間の法人ならではの考え方がうかがえます。こちらもNEDOとの共同研究事業で、発電規模は2000年に設置の70kWと2006年度に設置の100kW(いずれも体育館屋上)合わせて170kWで千葉県下最大、CO₂排出削減効果は約106t-CO₂/年とのことでした。

(2) システムの構成

発電装置にニッケル水素蓄電池とデマンドコントローラを組み合わせ、太陽光発電電力不足時には受電電力が契約電力を越えないように自動的に電池から給電し、さらに蓄電容量が不足する場合は負荷を制御(ピークカット)します。展示された実物の太陽電池モジュールは多くの参加者の関心を呼んでいました。

「身近な課題としてみる

生物多様性について」に参加して

種本 利治

3月25日(日)、市川市環境清掃部自然環境課学芸員の須藤治氏を講師に、事業部主催の講座が開かれた。

現在国レベルでは「第3次生物多様性国家戦略」を今秋にも決定すべく検討を進めている。また千葉県でも「生物多様性ちば県戦略」の年内決定を目指し、生物多様性県民会議などで積極的な意見交換が行われている。まさに時宜にかなった講座であった。

1. 生物多様性:

地球環境問題の一つとしての生物多様性、野生生物種の近年における加速度的な減少、希少種の保護から多様性の保全への流れ、多様性保全に関する国際及び国内動向を学んだ。生物多様性の3つの危機として、①人間活動による種の減少・絶滅や生態系の破壊・劣化が急速に進んだ②里地里山は人間の働きかけの減少で急激に変化・縮小した③移入種による地域生態系のかく乱や化学物質による汚染の影響の懸念、を認識することが出来た。

2. 身近な自然の生物多様性:

市川市の自然環境の概要及び市川市自然環境保全再生指針の内容と、指針に基づく保全活動の紹介があった。都市化の進んだ市川市の生態系は次の5区分に分類されるという。①樹林地として僅かに残った斜面林、②湿地—谷津と耕作放棄水田、③河川—江戸川、真間川、大柏川、国分川など都市河川と遊水地、④海辺—江戸川放水路と三番瀬、⑤最も“市川の”な市街地生態系(公園、街路、社寺など)。身近な自然の保全活動に心から有難いと思った。

3. 千葉県の生物多様性:

豊かで特徴のある自然を考える時に、太平洋の黒潮と東京湾に挟まれた半島、下総台地、上総丘陵という地形が基本になると思った。

4. 大きな視点で生物多様性を考える:

- (1) 生物資源を持続的に利用するために秩序を保った開発・利用が求められる
- (2) 人間活動の全ての問題点と生物多様性の問題点がつながっている
- (3) 環境カウンセラー活動では今まで以上にこの分野をケアすることが望ましい。

当日配布のテキスト等及び説明資料は、次のURLのYahooブリーフケースで公開されている。

<http://www.geocities.jp/toroparo/index.html>

筑波山自然観察会

中川文字

「山笑う」季節の筑波山自然観察会に参加できました。天候が危ぶまれるスタートでしたが、登りのケーブルカーが180mのトンネルを抜けるとアオキの群生地で、真っ赤な実の出迎えに期待感で胸おどりました。御幸ヶ原が徒歩での出発地点です。足元にはオドリコソウが淡紅紫色の花を付け、表情豊かな巨木に目を見張ると大層な樹齢のスタジイでした。近頃温暖化により標高600-700mにまで分布を広げてきているそうです。

カタクリは淡紫色で恥らうようにうつむき、半開きや、そっくり返る等さまざまな姿は、何れも美しく品格すら感じられました。ユリ科のカタクリは実生から8年目でやっと花開くとのこと、ひっそりとした林中に似合う植物ねと心で語りかけました。自然研究路も一面カタクリで、まるで筑波山全体に群生しているかのようでした。

ユリワサビ、アズマイチゲ、ニリンソウ、エンレイソウ、またエイザンスミレを始めとする数種のスミレ、頭上には淡黄色のキブシの下垂状の花を見ることができました。木々について、水の無い尾根筋にはマツが育ち、水や養分の条件が整った地にはスギが生育すること、麓から樹林の種類を見分けたり、山の姿を想うなどの楽しみ方ができるようになれたらと思いました。また天敵を上手にコントロールし、七年サイクルで生育しているブナの話など、植物や動物界の知恵に驚き、人間が手を付けることでマイナスになる面も改めて心に留めました。

黒く輝いた黒御影石の林道は、人が通ることで磨かれ、筑波山が岩山であることを証明するかのようでした。ガマ石は自然のいたずらと思うとうれしく、また立身石は5mくらいの巨岩で、間宮林蔵が10代の頃に出世を祈願した石だそうです。後に江戸幕府役人に取り立てられたと史実に伝えられています。

途中御海の入り口を通った際、水源が男女川との説明を聞き「筑波嶺の峰より落つる男女川

恋ぞつもりて淵となりぬる」

子どもの頃家族で親しんだ百人一首を思い出しました。意味も解らず覚えてから、60年ぶりに水源にたどり着いた心地です。いざなぎの尊を祀る871mの男体山、いざなみの尊を祀る女体山の両峰に立つことができましたが、あいにく雲で見晴らしがききませんでした。岩山からの関東平野の眺望の美しさを想像し、再登頂を決めました。これからはトウゴクミツバツジやヤマツツジのほか新緑もすばらしく、秋にはモミジと四季を通して感動に出会えるようです。

里山シンポジウム全体会

小野鈴子

5月19日(土)、第4回里山シンポジウム全体会が東金市・城西国際大学の水田記念ホールで開催された。同シンポジウムは平成16年、千葉県で開かれた第54回全国植樹祭を受け、翌年市民の手で木更津市・上総アカデミアパークを皮切りに我孫子市、八千代市と開催されてきたもので、「里山に託す私たちの未来」をメインテーマに据え、毎年サブテーマを変えている。

今年のテーマは「里山となりわい」。先人の知恵に学ぶ人々の暮らしと環境に負荷をかけない生産活動を「なりわい」と位置づけ、法政大学講師の小松光一氏を講師に招き、基調講演とパネルディスカッションが行われた。

主催者挨拶で堂本知事は、千葉には黒潮と親潮が出会う海があり、果樹は常緑の枇杷と落葉する梨が存在し、貝塚の密度は世界一であり、里山には先人達が作り出した循環する持続可能な生態系があり、里山のなりわいは日本固有の精神文化の中心であると話された。またパネルディスカッションの中においても環境に配慮しつつ地域の再生に対する思いを熱く語られていた。

ゲストの農林水産大臣政務官の福井照氏からは農水省が765億円を間伐費用として確保したという報告があった。衰退した日本の森林・林業活性化の礎となることを期待したい。

小松光一氏は講演の中で「はたらく」ことは、はたを楽にするボランティアワークであり、山仕事、道普請、草払いなど収入にならない仕事と稼ぎとなる「なりわい」すなわち収入(身入り)の2つの意味がある、稼ぎには農間稼ぎといわれる米作り後の鯉の放流、冬の酒造りや竹カゴ作りなどがあり、これらが後々工業として発展していったこと、「百姓」というのは農民のことではなく様々な収入を組み合わせる生活する人々のことであり、作る(生産・一次産業)+加工する(二次産業)+担いで売る(運送、販売・三次産業)ことから第6次産業の人々ということをわかりやすく話された。

里山シンポジウムには全体会の他に、毎年14~18程の分科会が設けられ、会場を移して異なる日程で開催されている。各方面で環境保護活動を牽引する活動家が、その年のサブテーマに沿ってそれぞれの分野の活動紹介や、参加型の体験イベント等を行なっている。

環境保護の活動や取り組みは、漸く一般市民の理解が得られるところまで来たが、決して十分とは言えない。いかに裾野を広げ理解を深めていけるか、この当たり前のことが鍵を握るのだろう。

市民活動紹介

アースコン・マツド

土田 茂通 (アースコン・マツド代表)

(EC千葉理事・相談役)

平成13年に千葉県は地球温暖化防止活動推進員の第1回目の募集を行った。同年11月に応募者の講習会が開催され、県よりEC千葉が講師派遣の依頼を受け、我孫子会場の講師を土田が担当した。その為松戸市から応募した推進員が私を知ることになり、現在スト温事務局長の武田勝氏と当時松戸地球村で活動していた塩崎俊一氏と相談し、当時松戸市の推進員9名に声をかけて「アースコン・マツド」を立ち上げた。全員参加で勉強会からスタートしたのは平成14年4月であった。

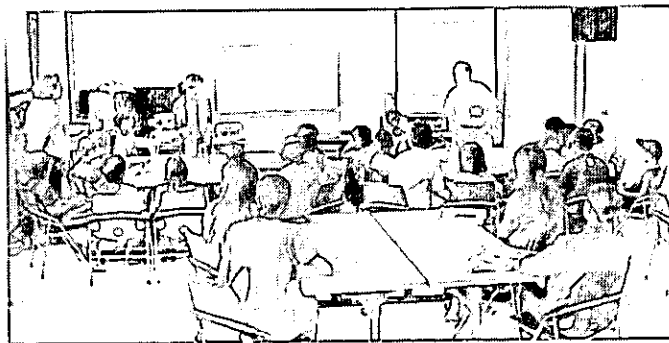
アースコン・マツドの名前はEarth Conscious group in Matsudo 地球を意識して活動する仲間の意味をこめた。一女性会員の命名提案に参加者一同の賛同を得て決めた名称である。その後意味を尋ねられ度々説明をして、真意を伝えてきた経緯があるが、活動とともにアースコン・マツドの名前も県内や松戸市内に浸透してきた。1年後の平成15年4月に会則や役員などを定めて市民団体として形を整えて活動を開始し始めた。

アースコン・マツドは、松戸市在住の千葉県地球温暖化防止活動推進員が会員で、現在25名(男性13名女性12名)で、特に女性の参加率が高いのが特徴といえる。一方、大部分の会員は他の市民団体にも所属、「環境カウンセラー千葉県協議会」「ストップ地球温暖化千葉推進会議」「まつど地球市民かいぎ」「松戸市消費者の会」「メイク松戸ビューティフル」「松戸ケナフの会」「河南環境美化の会」「太陽光発電所ネットワーク」「松戸まちづくり交流室テント小屋」「緑のネットワーク・まつど」「省エネ普及指導員」など。ネットワーク型の会員構成といえるが、当会の目的にそった独自の事業を協働で行っている。活動の場は松戸市、活動目的は市民・市民団体・事業者・教育や行政機関などと協働し、一般市民や子ども達に地球温暖化防止活動を呼びかけることにある。

例会の参加率は非常に高く70~80%が続いている。例会は毎月第4土曜日10時から12時に定期的に開催している。

①夏休みの「子ども環境講座」の開催

平成15年度から継続して行っている夏休みの「子ども環境講座」は毎年5日間コースで、今年は第5回目となっている。この「子ども環境講座」は平成17年



子ども環境講座4日目「新エネルギーのお話も聞きました」

から市環境計画課との共催で、アースコン・マツドが企画運営を行っている。小学高学年生を対象に夏休みの自由研究の為に、市環境計画課の「子ども版環境家計簿」の実践、自然観察会や環境とくらしの関わりを実験やゲームを通して楽しく学ぶことを目指している。

②「松戸市公民館市民連携講座」の企画運営

平成18年度は松戸市教育委員会主催で、企画運営を担当「身近な地球温暖化防止講座」4日間シリーズを行った。

③エコクッキング教室の開催

一般市民対象に年2~3回開催し、「身近な生活から地球温暖化防止が出来ること」に気づく活動にも力を注いでいる。

④松戸市におけるネットワークづくり

他の団体との協働ワークとして進められているものに「松戸市省エネルギー推進ネットワーク会議」と「まつど環境ネットワーク」がある。これらのネットワークのリーダー役として活動している。

⑤松戸版環境家計簿の普及活動

「松戸市省エネルギー推進ネットワーク会議」で開発した松戸版環境家計簿の普及活動を市の施策「エコ宣言」などと連動して展開、また市環境計画課の施策として小学校への環境学習出前講座に協力している。

⑥市内の環境団体との協働

松戸花火大会や常盤平さくら祭で、市内環境団体の活動に参加しポイ捨て防止の呼びかけをし、また松戸NPO活動見本市に参加し温暖化防止の呼びかけや諸団体との交流を図っている。平成18年度は県施策のタウンミーティングには積極的に会員が参加した。

これまでの活動状況について上に述べてきた。その特徴としては事業を実施する時の会員の参加率や月例会への参加率が非常に高いことが挙げられる。それも男性・女性が均等に近い参加状況にある。この特徴を生かし「役割分担を明確にして、全員参加で自主性をもって、自分のため、子孫のため、松戸市のため、地球のため、楽しく行う」をモットーに、更に活動を発展させたい。

総務部からのお知らせ

寄付金 (2007年1月27日～2007年7月1日)

阿部邦夫様	1,950円	戸村 泰様	26,025円
石黒 忠様	825円	西田啓作様	37,162円
大山長七郎様	15,675円	野口 久様	9,100円
小関光二様	13,000円	野口康男様	2,325円
小野鈴子様	75円	服部達雄様	3,525円
國廣隆紀様	22,500円	林 正徳様	79,775円
杉本公成様	1,500円	藤田忠宏様	44,375円
種本利治様	5,850円	古畑義正様	825円
辻川 毅様	225円	宮村啓二様	12,000円
土田茂通様	105,025円	山本光男様	193,500円

有難うございました。

ECU 便り

戸村 泰

ECUの19年の通常総会は6月26日に開催された。
その報告と最近のECUの動きを紹介します。

1. 19年度の組織運営と事業計画について

「ECUの本郷本部は8月に撤収、その機能はECU加盟組織で分担する」またECU事業は以下に限定する。

- ① 「全国のECU加盟組織が参加可能な事業」
- ② 「ECUの知名度アップのための事業」
- ③ 「本部維持運営経費の安定的確保のための事業」

(本郷のビル改修による退去を機に、法人登録事務所を杉並環境カウンセラー協議会の同住所に移し、事務機器を置き事務所の機能を全うする)

2. ブロック協議会：活動について

環境省7地方事務所にブロック協議会を対応させる。
「地方事務所・ECU本部事業及びブロック内組織の連携強化、未加入組織の加入促進、未組織化県への組織化支援など」(ECの代表組織としてECUが活動するため全国のECの組織率アップの必要あり)

3. 19年度の事業活動について

①環境教育：

- A.地球環境基金助成事業—温暖化防止活動推進員を地域で指導できる専門家の養成事業
- B.学校へECを派遣する事業—日環協との連携事業
- C.エコビープルのスキルアップ用テキストの作成と研修会開催(19年度のテーマは「緑化、」)
- D.ECU環境学習インストラクター養成事業大臣認定

②企業の環境経営支援事業

*セキスイハイム関連企業の内部監査と「ECUスパイラル・アッププラン・ステップ1」を実施指導する

③雑誌、書籍の出版、テレビの環境番組への支援

- * 「食品関係環境規制基準の手引き」の改訂
- * フリー雑誌「OHANA」への投稿
- * NHK子供向け環境番組HPへの協力

4. 当千葉県協議会への関わりについて

新年度のEC千葉の役員の業務分担：

戸村は副理事長を辞任のため残任期間の後任は土田氏がECU関東ブロック協議会会長・常務理事小角氏常務理事(緑化担当)

本間氏理事(関東ブロック協議会担当)。

事業活動3-①-C「エコビープル」は小角氏がプロジェクトリーダーです。EC千葉の協力は必須です。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

編集後記

- ♪ 3人体制の広報になり情報収集力が増すかと期待！行事報告に終ることなく、環境カウンセラーならではの発信が出来たらと考えています。(倉田 智子)
- ♪ 7/16朝、新潟中越沖地震発生。甚大な被害にお見舞い申し上げます。原発の事故、過去の隠蔽体質故に柏崎市長から運転再開不可を言い渡されたが、猛暑予想のこの夏、関東人の環境意識が問われることになりそうだ。(本間 格)
- ♪ 初めての広報では総会の写真を担当しました。不慣れですが、よろしく願いいたします。

(上口 清彦)

広報 環境カウンセラーちば 第31号 (発行日 2007年8月1日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：戸村 泰 会員：129名)

URL：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 倉田智子・本間 格・上口清彦・二宮 恵・松本源寿・石黒 忠・佐藤素子

E-Mail fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp (記事寄稿先)

(古紙100%再生紙使用)

広報

環境カウンセラーちば

第32号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。

環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

秋季研修会「地球温暖化対策について」

一環境カウンセラーおよび環境カウンセラー千葉県協議会として何をすべきか

辻川 毅 (地球温暖化対策センター長)

平成19年度環境カウンセラー千葉県協議会の会員研修会が11月10日(土)幕張・海外職業訓練センター(OVTA)で開催された。今年のテーマは「地球温暖化対策について環境カウンセラー及び環境カウンセラー千葉県協議会は何をなすべきか」であった。午前中は環境省地球環境局研究調査室の世一室長補佐の基調講演「IPCC第4次報告と地球温暖化問題の現状と動向」、午後はワークショップ形式で「我々カウンセラーは何をなすべきか」のグループディスカッションとそのまとめ、夜は発表と目標討議が精力的に行われた。

これらの内容について概要と纏め報告をする。



講師：地球環境局研究調査室・世一室長補佐

1. 基調講演 (要旨)

- 1) 温暖化防止の構造
- 2) 気候変動と様々な現象と今後
- 3) 今後の対応への考え方と方策の動向について、最新の学術面・状況面からの知見を入れた有意義な話と、日本が世界のリーダーシップを発揮する必要性を説かれ、これからの行動指針に大きな方向性をいただいた。機会があれば本日参加されなかった会員諸氏が拝聴できる機会があればと考える。
- 4) 最新の学術面・状況面から見た知見としては、例えば、極端な気候現象から見た猛暑、熱波、大雨の現象解析、南極及びグリーンランドの氷床、北極の海氷の状況、また、気候変動におけるフィードバック理論として、アルベト低下によるフィードバック・土壌有機物によるフィードバック・海水のCO₂取り込み量低下によるフィードバック・水蒸気のフィードバック・メタンガスによるフィードバック、その他温暖化現象の解析でバックキャスト、フォアキャストによる予測理論などを解かりやすく説明いただいた。

2. グループ討議の概要と行動目標まとめ

- 1) 県民へのエコライフの意識付け啓発指導。
- 2) 我々の今までの行動をデータベース化して活用
*環境カウンセラー、温暖化防止活動推進員として活動実績事例の発表会の開催
- 3) 指導者層、実践者を拡大するために環境カウンセラー、EA21審査人等の資格取得支援
- 4) 各主体との協働実践
*県市町村各地域自治体、教育委員会等との連携
*文部科学省の放課後プラン。
*普及事業者との連携でEA21等の普及とエコライフの指導
- 5) 地域社会との連携指導
*市町村地域での環境フォーラムの開催
*地域環境診断支援
*環境パトロールの支援
*人口の少ない地域市町村での環境学習会
- 6) 自己研鑽の促進を図る

以上

地球規模の水問題

バーチャル・ウォーターをご存知ですか？

阿部邦夫

9月1日、第6回公開環境講座を千葉市民会館で開催、千葉県環境研究センターの小倉久子氏の講演が行なわれた。当日は39名が参加、会場の椅子が足らなくなるほどの盛況であった。

バーチャル・ウォーターとはロンドン大学のアントニー・アラン教授が思いついた概念で、これを数値的に解析・解明したのが東京大学の沖大幹教授である。これは「食料の輸入は生産に必要な水をも輸入していることになる」という概念で、これがバーチャル・ウォーター(virtual water 仮想水)である。灌漑用に使われる水は世界の水使用量の実に7~9割を占めている。農業に必要な水は灌漑水(ブルーウォーター)と天水起源の土壌水分(グリーンウォーター)に分けられる。

2000年の日本の食糧輸入量について沖教授が試算したところによると640億トンの水を輸入したことになり、これは日本全体の水使用量900億トンの2/3にもなることが分かった。主な食料品の生産に必要な水資源は精製ロスを考慮すると小麦2000倍、米3600倍、鶏肉4500倍、牛肉20000倍にもなる。お金で食品を買っているつもりが、実は大変な量の水資源をも買っていることに気がつく。水資源の必要量は輸出国のものは「現実投入水量」であり、輸入国では「算定値が仮想投入水量」となり区別して考える必要がある。

日本は水資源に恵まれているが世界には極端に少ない所がある。降水量は日本では1500~2000mm/年であるが、カイロでは24.3mm アスワンでは0.7である。日本人の日常生活での水使用量は250~300ℓ/日・人であるが西イリアンでは1ℓで生活をしている。日本は大変水資源に恵まれた国であるが世界的に見れば地球温暖化に伴って水資源の偏在により難しい問題が起こってくることを認識すべきであろう。

—☆尾瀬国立公園誕生☆—

桧枝岐村では村内宿泊施設利用者に「ミズバショウ」をデザインした記念バッジをプレゼントしている！2万人限定☆



感想

日本の食糧自給率は39%になったとの報告がある。61%が輸入されたことになり大量のバーチャル・ウォーターが輸入されたことになる。今食料の自給率アップが叫ばれているが、本日の講演を元に100%自給を仮定して必要な水資源は $640 \div 0.4 = 1600$ 億トンの水が必要となり、現在の年間水使用量900億トンを全量投入しても700億トンが不足することになる。100%の自給は不可能であるが、水の原単位を考えた食料の自給率アップを考える必要があることが分かる。今後水の偏在化と農業大圏での化石水の枯渇を考えると末恐ろしい気がする。

日本においては遊休地の活用と水資源の効率的な利用が非常に重要であることが今日の講演で実感出来た。

* 沖大幹先生氏関連報告は以下のWebサイト参照

1. 世界の水危機・日本の水問題

東京大学生産技術研究所記者会見 2002年7月18日

<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/Info/Press200207/>

2. 「Oki&Kanae Lab. Virtual House」

1. 世界の水需給 1-3 Virtual Water

http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/Open_House/index.html

3. 「気候変動と世界の水資源」

http://icsepa.mri-jma.go.jp/outreach/20070324/Presentation/P1_Oki.pdf

エコアクション21(EA21)普及セミナーの報告

環境省の推進するEA21(環境経営システム)を平成19年8月24日(金)千葉商工会議所にて開催しました。

1. 今、何故、エコアクションか？(西田)
2. EA21の取組方法とそのメリット(種本)
3. 事例紹介 EA21に取り組んでの成果
 - (1) 廃棄物業 品川開発(株) 土井正則氏
 - (2) 印刷業 榎ディグ 杉井康之氏
4. EA21認証・登録の手続きとそのポイント(二宮)
5. 質疑応答 6. 個別相談

参加者:57名。アンケート回収:企業分23社。

参加者は今後構築、または検討が殆どであった。

参加者の立場により興味がある講演は異なっていた。

環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵

有馬富穂さん おめでとう！！ 千葉県環境賞受賞

当協議会顧問・情報副部長の有馬富穂氏が千葉県環境賞を受賞されました。

1977年度からの表彰制度は今年で31回目を数えます。功績分野は公害防止。八千代市において10年にわたり地域の環境保全に係る指導、普及・啓発に努めるなど環境保全の推進役として率先垂範の活動が評価されたものです。10月9日県庁にて堂本知事より表彰状が手渡されました。

セルビア共和国での環境セミナー



阿部 邦夫

バルカン半島の小さな国
マケドニア共和国で昨年
から養豚場、と畜場の環境整備
のお手伝いをしていた。それが
縁で9月26日に隣国のセル
ビア共和国で開催された

「Waste Management
Seminar」に招かれた。

私の題は「Zero emission in agriculture and animal husbandry」である。和郷園と山田バイオマスプラントの実例を中心に約45分講演した。

旧ソ連邦とその衛星諸国は、ソ連崩壊により独立はしたものの制度面、技術面特に環境面では非常に立ち遅れてしまった。これを技術面で支援するために欧州復興開発銀行（EBRD）が設立され、27カ国+モンゴルを支援する体制が出来ている。その支援システムの一つにTAM(Turn Around Management)があり、私もTAMメンバーに登録されている。バルカン半島諸国の環境面での支援には日本が特に力を入れている。



セミナー会場内

セミナー当日は環境副大臣、長井日本大使、JICA 所長をはじめ80名の出席があり大変盛況であった。セルビア、マケドニアの養豚業の糞尿は素掘りのラグーンに入れ、その先は小川。と殺場の血液は排水とともに自然放流されている。私は、糞尿は堆肥にするか血液とともにメタン発酵させ液肥を大地に還元し、GAP(適正農業規範)を導入して安心・安全農業を確立すること、そうすることで環境問題は解決出来ることを強調、そのために是非日本を視察し研修することを提案した。

EC千葉にはTAMメンバーの人が他にもおられます。皆さんも是非TAMメンバーになって世界で活躍されるようお勧めします。

第10回企業環境セミナーの実施報告

今年、企業環境セミナーも第10回を数えます。最近
は毎年千葉商工会議所のご協力により実施しています。

開催日時 平成19年10月19日(金) 13:00~17:00

場所 千葉商工会議所

基調講演 吉野定治氏

「環境マネジメントシステムでの中小企業の生き残り作戦」

(一主任審査員から見たISO14001取り組みの
振り返りと今後)

分科会(1) 「ISO14005(環境マネジメントシステムの段階的
実施)で見直そう」 廣川一男氏
(規格作成時の段階で構築運用について提案
されていることから)

分科会(2) 「組織経営に効果が少ない環境マネジメント
システムの問題点と対策」 山本光男氏

分科会(3) 「内部監査で効果をあげるには」

西田啓作氏

* * * * *

アンケート結果

☆参加者：企業	認証取得済	70%
	実認証取得または構築中	20%
	個人	10%

☆基調講演

内容について：適切	85%
物足りなかった	15%
時間配分について：適切	90%
短すぎた	10%
長すぎた	0%

概ね良好な結果であったと考える。

☆分科会について

各分科会とも内容及び時間配分：	概ね適切
内容について：物足りなかった	1件
時間配分について：長すぎた	1件
意見・感想については参考になる点が多かったが全般的に好意的に記述されていた。	

環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵

フードマイレージで出来る地球温暖化防止

小野 鈴子

8月7日、柏市さわやか県民プラザでの子供劇場プログラムメッセに参加、ワークショップを担当した。

フードマイレージとは1994年に英国の消費者運動家ティム・ラング氏が提唱した Food Miles という考え方による。輸入食糧の総重量と輸送距離を掛け合わせたもので、トン・キロメートルという単位で表す。食料の生産地から食卓までの距離が長いほど、輸送にかかる燃料やCO₂の排出量が多くなる。フードマイレージの値が高い国ほど、食料の消費が環境に対して大きな負荷を与えていることになる。2000年の日本の食料輸入量は約5300万トンであり、これに輸送距離を掛け合わせるとフードマイレージの値は約5000億t/kmとなり、先進国の中で群を抜いた高い値となっている。2位の韓国の3.4倍、3位米国の3.7倍であり、国民一人当たりで換算すると日本は4000t/kmになる。食糧は地球規模で移動している。国毎に食糧の輸入量、移動距離や人口が異なるため、フードマイレージという考え方を取り入れることによって、数値の比較はしやすくなる一方、CO₂の排出量は読み取る事はできない。

ワークショップでは、参加者にハンバーガーと資料を提供、さらに小麦の自給率14%、菓子類、麺類、パン類の殆どが輸入小麦を使っていること、またハム・ソーセージも多くは輸入豚肉を使っていることを予め知らせた。回収したアンケートでは、20代の参加者からかなり否定的な意見が多く出された。

上高地自然観察会 (9月21-22日)

配偶者同伴6組を含む一行17名が上高地に集合。今回は当会顧問小角浩さんがガイド役でした。

上高地ビジターセンターで全体的な説明を聞いてから、河童橋を基点に、梓川沿いに田代池を経て、下流の大正池に向けて歩きました。途中、植生保護のための木道や川岸の侵食対策の蛇籠などの説明を聞き、自然を守ることの大切さを改めて感じました。

梓川は周辺の山腹からの押し出しにより、多くの土石が流れ込み、次第に河床が上昇しつつあり、自然の推移に任せれば大正池も次第に縮小してゆくものと考えられます。一方、発電用の調整池機能を維持する目的で電力会社が一般利用客のいない冬期に浚渫しているとのことでした。上高地公園活動センターでの夕食後、囲炉裏の裸火を囲み、全館貸切の気安さもあって、自然に関する思いや日頃のライフスタイルなどを楽しく語り合うことができました。

1. 国産品の方が割高で、それを買い求めるための費用をまかなうために、余分な労力が必要となり、その結果更にCO₂を排出することにならないか。
2. フードマイレージの考え方に魅力を感じない。
3. 個々の品目の二酸化炭素排出量のデータを比較しても、この程度の差であるなら、輸入品を買っていても大差ない。
4. 国産品と偽り輸入品を売りつける業者も必ずある。

全ての食を国産品で賄う必要はなく、「100のものを0には出来ない、0ではなく99にすればよい、一人が1減らすと100人で100になる」と肩の力を抜いて考えられればよい。各人ができる時に出来ることを取り組みればよいのである。また食材100gではなく1トンで考えれば、その差は10000倍になる。

子供が成長するに従い外食も多くなっていったが、今回の資料の内容を子供に伝え、一緒に考えて行きたいという参加者からの発言は嬉しい限りであった。

日本の食糧自給率はカロリーベースで40%、生産量ベースにすると30%に満たない。小麦は政府の補助もあり自給率は14%にまで回復してきた。しかし小麦粉を原材料とする菓子類、パン類、麺類のほとんどが輸入小麦に依存している。国産小麦や米粉のパン、或いは国産小麦の麺類を見つけたら、一度は購入して欲しい。

フードマイレージは省エネに匹敵する温暖化防止効果があると考えられている。温暖化防止は日々の食生活からも取り組めることにぜひ気付いて頂きたい。

参考資料：

EIC (国立環境研究所・環境情報案内) 環境用語
「大地を守る会」 <http://www.food-mileage.com/>

* * * * *



山をバックに全員集合

翌日も天候は上々、河童橋から明神池に向かい、天然カラムツや上高地と北海道の一部にしか生育していないというケシヨウヤナギを観察しつつ、また、江戸時代には多くの樵夫が山仕事をしていたとの話を聞きながら歩を進めました。穂高神社奥宮でもある明神池では水面に映える黄葉が始まった木々が印象的でした。(國廣隆紀)

総務部からのお知らせ

寄付金 (2007年7月2日～2007年11月4日)

二宮 恵様 3,000円 山本光男様 39,000円
小関光二様 1,500円 上高地自然観察会様 90円

ありがとうございました。

ECU 便り

ECUの本年度事業における最近のトピックスをお知らせします。

1. ECUは「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」第11条の人材認定等事業の登録を申請中でしたが、6月20日付で環境省から認定された旨通知された。その関連でECUの「人材の育成及び人材の認定に関する事業実施細則(改正案)」について常任理事会で審議を行い、常務理事全員の賛否をもって承認され、11月1日から運用開始する。
2. 日本環境協会から「放課後クラブ」「こどもエコクラブ」対象にECUは環境カウンセラー派遣事業を受託。楽しい環境学習プログラムを提供する本事業は、モデルケースとして関東地区で本年度は10箇所実施することになった。
千葉県では松戸市の放課後クラブ4箇所から希望があり、11～12月にECを派遣し実施する。そのためECUは環境カウンセラーを対象に環境教育指導者研修会/教え方講座を開催し、EC千葉よりは中庭武雄氏、倉田智子氏が研修に参加、全講座を修了し担当することになった。
3. ECU本部事務所が移転
〒167-0051 東京都杉並区荻窪5-15-7
白鳳ビル2F202号 (土田茂通)

トピックス! 再生紙が温暖化を加速?

環境負荷が増えるとして日本製紙では古紙100%配合製品を廃止(07.4.24発表)。業界他社も追随、そのため本紙も70%再生紙を採用することとなった。

あの町この街 地域短信

- ☆ 八千代市・エコライフやちよ
10月10日市民活動サポートセンター祭りに参加、EC千葉所有の「省エネ照明セット」による消費電力の説明と実際を見て、蛍光灯に変えようという市民が続出!
- ☆ 鎌ヶ谷市・環境市民会議
「環境カルタ」を作成中。市内外、幼稚園生から大人まで300件を超える応募があった。現在選考作業が進んでいる。来年度環境月間にはカルタ取大会を予定。
- ☆ 東金市
家康ゆかりの八鶴湖の浄化が市民の手により計画された。農業用水需要の少ない時期、雄蛇が池から導水する予定で、現在話し合いと資金集めが行なわれている。
- ☆ 船橋市・環境保全課
市民と一緒に「セミのぬげがら調査」を実施し4年が経過、データの蓄積結果が楽しみである。市内ではクマゼミの生息が確認されている。今年は(財)日本自然保護協会も全国調査を行なった。

編集後記

- ♪ 広報は環境カウンセラーの情報発信の場である。行事報告でも書き方次第で質の高いものとなるのはフードマイレージの記事で証明できる。主観より客観性を重視したい。(倉田智子)
- ♪ 今年ほど「食」が注目された年はなかったのではなからうか? 「食育」「地産地消」が叫ばれた反面、「食」に関する不祥事も目立ち、安全・安心感が損なわれた年でもあった。朝日新聞(11/15 ニュースがわからん!)によれば、食品偽装の規制対象が重なっても、複数の法律のため取り締まれない、相変わらずの縦割り行政の弊害があらわれているようだ。本号では小野氏、阿部氏から食に関する原稿を頂いたが、今後もこのような寄稿を歓迎したい。(本間 格)

広報 環境カウンセラーちば 第32号 (発行日 2007年12月1日)

発行: 特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者: 戸村 泰 会員: 130名)

URL: <http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所: 〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局: Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 E-mail: ec_chiba_exec@yahoo.co.jp (各種ご相談、お問合せ先)

郵便振替口座: 00110-5-34692 (加入者名: NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに!

編集: 広報部 倉田智子・本間 格・上口清彦・二宮 恵・松本源寿・佐藤素子

E-Mail: fwkd4421@mb.infoweb.ne.jp (記事寄稿先)

(古紙70%再生紙使用)